

平成 30 年度 認定こども園評価 報告書

1. 本年度の重点目標

「しなやかな心と体で個性豊かに遊び込める子どもに」	①読み聞かせによる体験保育
元気いっぱい遊べる子 やりとげる子	②のびのびと体を動かして遊ぶ
考えて行動する子 待てる子	③日本の伝統を大切にしながら、外国人先生にも親しみ、真の国際人を育てる
思いやりのある子 思いを言葉で表現できる子	④アクティブラーニングの実践

2. 園評価項目

未満児 0.1.2 歳児 / 以上児 3.4.5 歳児

分野	評価項目	園自己評価 改善の方策 等	園関係者評価
保育方針	「しなやかな心と体で個性豊かに遊びこめる子どもに」を目標に各年齢に応じた計画をたて、元気いっぱい遊べる子、考えて行動する子、友達と仲良くできる子の育成に向けて努力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領をふまえた新カリキュラムを作成し、全職員の研修を行ったので、共通理解も出来て努力が進んでいる。 ・子ども達の姿を見て、一人ひとりへの対応を考え実践しているが、今後は更に「気になる子」への特別対応を考えていきたい。 	<p>子どもの発達（年齢）に応じて、きめ細やかな保育が行われている。</p> <p>特に、やりとげる力、待つ力、考えて行動する力がどの園児も素晴らしい。</p>

職員について	<p>子どもの発達段階及び保育、教育のあり方を学び、子どもの心に寄り添うことや保護者との協同など、総合的に子どもの理解をめざす。特に未満児の場合は指導的立場の職員と経験不足の職員を同じ担当クラスに配置して、保育状況を目で見て理解できるよう配慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の教育、保育だけでなく、行事等の準備、片づけ等、保育の主体的な協力がとてもよく出来ている。 ・今後は、先輩の保育士が指導方法を向上させて、経験不足の職員への指導を今よりもっと充実させたい。 ・園内、園外の研修内容を、報告会を設けて発表し、全職員に広げていく。 	<p>園児一人ひとりの名前や保護者の顔を覚えているところからも、良好な人間関係が構築されていると感じた。</p>
園児について	<p>十分な保育や教育が出来るよう努力する。子ども達が毎日楽しみに登園できるよう、十分な声かけやスキンシップを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの特徴をとらえた教育、保育が出来ているが、今後は特別なかわりの必要な子に対して全職員での保育、スキンシップを取り入れて実践していきたい。 	<p>園児同士で助け合っている場面もみられ、良好な人間関係が構築されていると感じた。</p>
施設・整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に遊具、施設設備の点検をして、安全面に注意をはらい、ケガのないようにする。 ・不審者侵入対策について、録画カメラの設置をしたり、開門時の立ち当番をおいたりして、心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の出入りが多い時間帯は、係の職員が門のところで対応するようにしているが今後は更に気をつけていく。門扉を長時間あけていると、ドアロックが働いてしまい、開いたままになることがあるので、気をつけたい。 ・新しい遊具が増えたので、更に点検を広げる。 ・ホールの遊具の下に安全マットをひく。 ・「ヒヤリハット」を継続し、危機管理に努める。 ・インフルエンザ等が出ると、全職員に報告し対応を考え、実践する。 	<p>校門の門扉のドアノブがきちんと閉まらないことがあった。</p> <p>遊具、施設などはよく手入れをされていて、清潔に保たれていると感じた。</p>

<p>保育内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせにより、自然や動植物、物語等に興味を持つ子供を育てる。 ・保育内容は自分の思いを言葉で伝えられるようコミュニケーション能力を高める。 ・アクティブラーニングの取り組みや英語学習システム「サイバードリーム」を取り入れ、園児自らが楽しんで努力できる子どもに成長するように導く。 ・鉄棒、マット、跳び箱、のぼり棒等、走ったり、跳んだりすることを楽しんで挑戦できるように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一階ホール、二階ホールでの遊具を増やしたので、子ども達の運動力が高まってきた。今後は用具の置き換えをこまめにしていく。 ・読み聞かせを毎日行っているので、本の好きな子が増えてきている。 ・英語指導とサイバードリームを実施しているので、ネイティブな英語を話すことが出来るようになってきた。 ・サークルタイムの活用で、自分の考えを皆に話すことが多くなった。更に、考えを深めることが出来てきている。 ・図鑑を喜んで見ているので、興味が深まり、色々な知識も高まってきている。 	<p>子どもの「教育」をしっかりと考えてカリキュラムが組まれていると感じた。</p> <p>園での教育をきっかけに、家庭での今後の教育方針を考えることもあり、大変素晴らしいと感じた。</p>
<p>預かり保育について</p>	<p>子どもの状態に応じて、慣らし保育や合同保育等、色々な対策を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢やその子の様子にしたがって、一時預かりの保育室か、合同保育かを決めている。 更に、保護者の希望も取り入れていきたい。 また、子育て相談も随時受けている。 	<p>困っている人を助けてあげられるので、これからも優しく対応して欲しい。</p>
<p>子育ての支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者以外の親子を対象とした「まちの子育てひろば」を開催している。親学をはじめとして、リズム遊びや読み聞かせ等、親子遊びの活動を通じて子育て中の親子が集える場を提供する。 ・園児の保護者には子育て学習会『親学』を年5回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年懇談会を年1回、また、講演会や親学講座をおこなっている。更に今後も深めさせていきたい。 ・登園時、降園時に担任が保護者と連絡および相談を行っている。また、必要に応じて個別相談会を多く行っていきたい。 	<p>「親学」等で保護者が相談できる場があるのが良いと感じた。</p>

給食等の実施状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・給食懇談会を行い看護師、栄養士、保育士を交えてアレルギー児対応や安全給食について学習会を行う。 ・給食試食会を開催し、保護者の意見を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日のメニューを園児本人の希望で決めているが、更に続けていきたい。 ・さらに手作りおやつ充実をはかる。 ・献立メニューの掲示を給食室前から、児童が見やすい場所へ移動して、より食への興味関心をもたせたい。 	<p>季節にあった旬の献立もあり、良いと感じた。</p> <p>手作りおやつは園児にも好評ときいた。</p>
保護者会等の活動状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の保護者及び職員が一体となり、園と家庭との連絡を密にし、園児に対する正しい理解を深め幼児教育の向上を図る。 ・年に数回、参加型行事や参観の機会を設けて、本園の保育について理解をえたり、意見をうかがったりする。 ・問題を抱えている園児については必要に応じて相談会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てが大変なお母さんを家族全員でサポートすることの大切さをプリント等で、お知らせすることが必要である。 ・問題を持つ子の相談会はよく行っているが、その後どうなったかの報告会が必要ではないだろうか。 ・行事等のあと、アンケートを実施し、今後の方針を考えていきたい。 	<p>保護者会役員のみならず、日頃から保護者の意見を取り入れようとの姿勢が感じられる。</p> <p>園と保護者とのコミュニケーションはよく出来ていると感じる。</p>
登園・降園について	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止の為、必ず保護者同伴を原則とし登園、降園時の安全に配慮する。 ・駐車場や道路での往来について、保護者へ注意をはらうよう依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全面については、本年度、『交通安全教室』を実施して意識付けをした。 ・園内、道路、駐車場での保護者の立ち話について、注意を呼び掛けているが、まだまだ徹底できていないので、色々な方法を考えて今後も続けていきたい。 ・駐車場に新たな出口を作った方がいいかについて検討したい。 	<p>混雑時の駐車場は非常に危険が多いと感じる。</p> <p>駐車場で交通安全教室を実施してみるのもいいのではないか。</p>

園児募集について	見学者については、日時を設けて対応している。障がいのある幼児の入園相談も行っている。	・見学者に対しての対応は、今後も丁寧に行っていきたい。	積極的に園児の受入れを行っていると感じる。
財務状況	公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。		
評価について	<p>教育目標の実践だけでなく、5つの領域『健康、人間関係、環境、言葉、表現』や、10の姿『健康な心と体、自立心、協同性、道徳性、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然とのかかわり、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現』をふまえ、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成にむけて努力してきた。</p> <p>今後も近年の新しい国の方針をふまえて、より主体的でコミュニケーション力のある子どもの育成に向けて努力していきたい。</p>		